

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
令和3年度第2回美里町在宅医療介護連携推進会議
- 2 開催日時 令和3年11月30日（火） 午後6時30分から午後8時02分まで
- 3 開催場所 美里町健康福祉センター 大広間
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員
玉手英一委員、大蔵暢委員、野田清一委員、高橋均委員、尾形文克委員、
伊藤恵委員、三浦禎委員
 - (2) 事務局
渡辺克也、相原浩子、五十嵐華絵、小林公美、菅井晶
 - (3) その他
涌谷町福祉課包括支援班 早坂宏美
社会福祉協議会 高橋ゆかり
健康福祉課 菊地知代子、及川沙希
町民生活課 佐藤千賀子
- 5 議題及び会議の公開・非公開の別
議事
 - (1) 在宅医療介護連携推進事業の取組状況について（資料1～資料9）
 - (2) 認知症事業について（資料10～資料11）
その他
 - (1) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業について
会議の公開・非公開の別
公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の人数
0人

8 会議資料

別紙のとおり

9 会議の概要

署名委員 尾形文克委員、伊藤恵委員

(2) 議事

(1) 在宅医療介護連携推進事業の取組状況について	
事務局 小林より説明	
	(従事者研修会の感想)
伊藤委員	本人の意思を確認し、本人の気持ちを知ることの大切さを改めて感じた。実際には、家族や環境によって遂行することが難しい時もあるが、本人の意思に沿うことは大事で、それを軸に物事を進めていけると良いと思う。
尾形委員	自己決定は意外と忘れがちになってしまうが、その人の決定に寄り添った目標を立て、ベストをつくすことが大切だと思う。中には、できないことも出てくるので、専門職が評価し、ここまでならできると本人へ提案することも自分たちの仕事だと感じた。
小林技術主査	アンケートでも、受けて良かったという意見が多かった。本人が決定することを支援するのも難しいところはあるが、支援者として提案したり、基本を知っていることで本人への関わり方も変わってくると思う。とても良いテーマだと思った。行政だけでなく、ワーキングで研修会のテーマを決めることができ良かった。ワーキングに出席した際の意見を聞きたい。
伊藤委員	現場で感じていることを協議することができ、有意義だった。ワーキングで研修会のテーマを「意思決定支援」に導くことができたことが良かった。
尾形委員	活気ある意見交換ができて良かった。今後も開催できると良いと感じた。
小林技術主査	行政の職員だけでなく、現場で働いている委員さん方の意見を聞きながら、事業を考えていきたい。今後もワーキングを続けていきたい。 介護サービス事業所の従事者や薬剤師に実施したアンケートで、服薬についての困りごとの記載が少なかった。このことについて意見を聞きたい。
尾形委員	利用者の内服薬について疑問を持っていないことや、利用者の内服

	薬の情報を把握していないことも珍しくない。利用者に課題があることを把握していない。
小林技術主査	通所介護の利用者やその介護者の内服薬の相談はどうなっているのか。
尾形委員	老老介護の家庭や介護に興味のない方からの相談はない。
伊藤委員	生活援助で支援しているヘルパー等は、利用者の内服薬のことまで把握していない場合がある。従事者が、困っていることと聞かれても何を答えれば良いかが分からないと思う。
高橋委員	利用者が内服薬等のことで何に困っているのかを、従事者が把握していない。疑問を感じて相談をしないと対応することが難しい。
玉手委員	残薬がないか等心配している。最近では心不全の患者が増えており、内服を正しく行っているかが心配な時代になってきた。治療も複雑になってきている。残薬の情報は医師にしてもらいたい。医師も様々な職種の人とのつながりが大事だと感じている。
小林技術主査	利用者に関わっている様々な人が連携して、主治医に残薬等の情報を伝えることが大事になる。
三浦委員	薬と身体症状の因果関係を理解していないから困らないのではないかと。生活と薬の副作用が結びつかないと困らない。従事者にそういうことが知識としてないと困りごとにならない。
小林技術主査	アンケートの設問の検討が必要だと思った。また、因果関係について知識を伝えることを工夫していきたい。
玉手委員	利用者のケアを行う従事者は、残薬をチェックすることを基本的に行い、その情報を主治医に提供してもらおうと助かる。
相原課長補佐	町民や従事者へ、副作用についての知識や意識付けをすること、また従事者間の連携を図ることの工夫はできるのではないかと。思う。
野田委員	高齢者は内服している人が多い。高齢者は認知症でなくても、面倒になり自分で内服しないことがある。正しく飲むことは難しい。
相原課長補佐	今回の意見を参考に、今後の研修テーマや、従事者が連携を図れるよう検討を行いたい。
(2) 認知症事業について	
事務局 五十嵐より説明	
伊藤委員	多くの認知症事業を行っていることが分かった。小学校や中学校では、具体的にどのようなことを行っているのか。
五十嵐技術主査	今年度は、小学校で認知症サポーター養成講座を行っている。認知症キャラバンメイトや社会福祉協議会といっしょに、小学校へ声をかけて実施している。

伊藤委員	テレビで通学中の子どもたちが、倒れている高齢者を助けたニュースを見て、子どもたちの力ってすごいと思った。どこかで学びを得ていると力になってくれると思う。
尾形委員	小学生のうちから認知症について知る、教育していくことは大切だと思う。今、認知症サポーターと認知症キャラバンメイトは、どのような活動をしているのか。
五十嵐技術主査	<p>認知症サポーターには、認知症サポーター・ステップアップ講座を受講してもらい、学びを深めてもらっている。具体的な活動までは至っていないが、いきいき百歳体操等の参加者には、認知症ではないかと思う人もいるので、事業への協力について声をかけることができれば良いと思っている。</p> <p>認知症キャラバンメイトは、認知症サポーター養成講座の講師をしている。</p>
玉手委員	認知症の周辺症状で困っているという相談がある。その時は、認知症の診断をされているかの確認をしてからサポートをするようにしている。ビタミン不足や、硬膜外血腫等の治る認知症もあるので、診断を確認してから認知症の相談に入ると良いと思う。
五十嵐技術主査	町内には、認知症専門の病院はないので、認知症初期集中支援事業を活用することや、町外の専門医と連携をとることで診断の確認をしていきたい。
高橋委員	同居家族がいれば、認知症に気付けるかもしれないが、独居高齢者や高齢者世帯が増えている中で、どのようにケアやフォローをしていくのが課題になってくる。気になる人がいた場合、プライバシーの問題で支援が難しいと感じることがある。地域全体で認知症の方をみていける体制があると良いと思う。
三浦委員	子どもたちが、認知症の方の姿をどのようにイメージするかは、高齢者と同居しているかどうかでも異なる。認知症の状態は幅があるので、理解するのは難しいと思うが、高齢者の思考や身体の変化について伝えながら学べると良いと思う。
相原課長補佐	社会福祉協議会と高齢者について学ぶところから始められると良いと話をしていた。今年度は教育委員会ともつながることができている。
高橋（社会福祉協議会）	学校の総合的な学習のなかで、福祉について学ぶ時間があり、社会福祉協議会で出前講座を行っている。高齢者について学ぶときは、身体の変化とともに、高齢者の良いところを伝えるようにしている。認知症サポーター養成講座でも、認知症の症状だけを伝えると、認知症

	になるのが怖いというイメージになってしまうので、接し方に重点をおいた内容を長寿支援課と企画している。
野田委員	介護認定審査会委員をしているが、認知症の方は増えていると感じている。若い人にも理解してもらう体制づくりは必要だと思う。
五十嵐	今後は、若い世代への啓発とともに、ご本人と会える機会について、認知症キャラバンメイトや認知症サポーターと考えていきたいと思っている。今後も意見をいただきながら、事業や連携の在り方について検討していきたい。
野田委員	ご本人とは、認知症の方ということか。
五十嵐	はい。今行っている認知症カフェでは、地域の方が参加しているが、その中に認知症の方も参加して話ができると良いと思っている。参加していただけるよう、ケアマネジャーを通して声をかけている。
野田委員	対象とする方は、軽度の認知症の方になるのか。
五十嵐	地域で暮らしている認知症の方を考えている。
尾形委員	美里町の高齢化率は約35%だったと思うが、多い地域だとどのくらいの高齢化率か。
小林	具体的な数値は確認する必要があるが、例えば、大口団地は他の地域より高いと思われる。
尾形委員	宮城県では、施設等の介護員が不足するという情報があったと思うが、どのくらいなのか。
三浦委員	当初は過剰な不足数が公表されていたようだが、今は修正されている。しかし、全国的にみても宮城県は厳しい状況がある。
尾形委員	外国の方はどうか。
三浦委員	外国の方は、研修を受けて一時的に滞在するが、暖かい地域の方が多く、寒い地域である東北より関東や関西、または母国に帰ってしまう人が多いようだ。東北に貢献していただけるかは、難しい状況がある。
野田委員	マイナンバーカードは健康保険証として利用できるもので、歯科医院でカードリーダーを導入したが、今後どのようになっていくのかが気になる。将来的に、在宅医療と介護の連携に使っていただけると良いと思う。
その他 (1) 高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的事業について	
健康福祉課 及川より説明	
野田委員	ハイリスクアプローチ等、とても良い事業だと思う。 美里町の特定健診の受診率はどのくらいか。

及川技術主査	<p>48%から49%位になる。今年度は、昨年度より数値は上がっている。目標値の60%までには及ばないが、比較的県内でもまずまずのところ受診できていると思う。</p> <p>受診勧奨については、国民健康保険担当者と協力し進めている。未受診者は3回通知しているが、繰り返し勧奨することで受診につながった方もいるので、今後も続けていきたいと思う。</p>
相原	<p>高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的事業については、町民生活課、健康福祉課、長寿支援課、また、涌谷町とも連携を図りながら進めていきたいと思う。</p> <p>次回の会議は、2月を予定しているので、よろしくお願ひしたい。</p>
	<p>(事務局より事務連絡) 終了 午後8時02分</p>

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員 _____

委員 _____